

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	82	学校名	静岡県立浜北西高等学校	校長名	野澤 博文
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「授業に意欲的に取り組んでいる」と答える生徒 85%以上 「授業に満足している」と答える生徒 80%以上 「授業以外で自主的に学習に取り組んでいる」と答える生徒 70%以上（塾や放課後の補習等も含む） 授業でICTを活用した職員の割合 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業に意欲的に取り組んでいる」と答える生徒 88%。 「授業に満足している」と答える生徒 84%。 「授業以外で自主的に学習に取り組んでいる」と答える生徒 55%以上。 「授業でICTを活用した」職員の割合 87%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業に関する目標は達成している。細かい授業内容等については、授業評価アンケートの結果を参考にしながら、継続して改善を図っていく。 自主的学習について、塾や放課後補習を含むとしたことで、昨年度より数値が増加したが、まだ十分とはいえない。 ICT環境が整い、ICT活用は加速化した。効果的な活用法を検討する段階に入ったので、来年度の課題としたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 「進路実現のための努力をしている」と答える生徒 80%以上 新しい大学入試に対応した指導の実施（授業・検定・進路課外等） 進路課外等の計画的実施 スタディサプリを活用した特進クラスの個別最適学習指導の検証 	<ul style="list-style-type: none"> 「進路実現のための努力をしている」と答えた生徒 83%。 生徒に対して様々な場面で教科指導や面接・小論文指導等の支援を行うことができた。 各学年で放課後課外や朝小テストを実施した。 「スタディサプリの動画等は分かりやすい」87%、「到達度テストにより、理解度や課題が明確になった」80%。（1・2年特進クラスアンケート） 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本校では学校推薦型選抜を受験する生徒が多いため、面接・小論文指導を全教員で手厚く行っているが、一般選抜に向けて教科の学力を向上させる必要がある。また、総合型選抜で不合格となる生徒は志望理由が明確でないことが多いため、その対策にも力を入れたい。 スタディサプリは、学習習慣の定着や習熟度別学習に効果があるため、来年度も継続していく。
		<ul style="list-style-type: none"> 月末読書量統計調査の実施 1、2年生を対象とした読書強化週間の実施 年間7冊（11月末6冊）以上の生徒 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 図書室を活気づけるため、「読み聞かせ会」「推しトーク」などの新イベントを企画・実施した。 図書強化週間を1・2学期に1回ずつ開催した。 11月末時点で6冊以上本を読んだ生徒は 57%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> イベントに多数の生徒が参加し大盛況だった。来年度もイベントを継続し図書室を活気づけたい。 6冊以上本を読んだ生徒が目標を大きく下回った。朝読書及び長期休業前の貸出を推奨していく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・教科主任会議年間3回の実施 ・他教科の評価方法等の情報共有による適正な観点別評価実施に向けた改善推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科主任会・研修会を年3回実施した。 ・教育課程及び観点別評価を改善・見直し、令和8年度から変更する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度教育課程、令和8年度観点別評価の変更に関わる会議を重ね、変更案や課題等を議論することで、教員の意識が向上し、良い研修となった。
	教員の授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ授業一人年間1回以上、他教科も含む授業見学2回以上の実施 ・ロイロノート等を使った「効果的なICT活用による授業改善」研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ授業の実施率は100%だった。また、授業見学の実施率は84%であった。 ・ロイロノート活用研修を2回実施し、授業改善に役立てることができた。 ・予備校等の指導力向上セミナーに2名が参加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの授業を見学し合うチャレンジ授業は、授業を見直す良い機会となっている。 ・研修で学んだロイロノートを積極的に活用する教員が増え、学び合う雰囲気が高まった。次年度も継続して、ICT活用を推進するとともに、教育課程を意識した授業研究を行っていく。
イ	「時を守り、場を清め、礼を正す」指導と規範意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年初期・中期指導6時間以上 ・「8:25朝読書開始ができています」と答える生徒80% ・学年集会の開催年間8回以上、集会時の遅刻0% ・「時間を管理し、家庭学習の開始時間を守ることができた」と答える生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年において集会などを実施し効果的な指導ができた。 ・「8:25に朝読書開始ができています」と答えた生徒98%。 ・「時間を管理し、家庭学習の開始時間を守ることができています」と答えた生徒60%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年においてタイミングを見て、指導を実施することができた。その一方で、時間に余裕がある行動とは言えない部分もある。タイムマネジメントという観点で見ると、更に高いレベルでの指導が必要と感じている。 ・前年度よりも効果的に手帳を活用することができたが、約40%の生徒は家庭学習の開始時間が守れていない。時間管理の大切さを生徒に理解させることが課題である。

		<ul style="list-style-type: none"> ・「清掃時に自分の役割を果たし、校内美化に努めた」と答える生徒 80%以上 ・「家庭ごみの持ち帰り、ごみの分別等のルールを守ることができた」と答える生徒 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備委員を中心に具体的に場所を絞って清掃活動を行った結果、「清掃時に自分の役割を果たし、校内美化に努めた」と答える生徒は 98%だった。 ・ゴミの持ち帰りと分別について、何度か呼び掛けを行った結果、「家庭ごみの持ち帰り、ごみの分別等のルールを守ることができた」と答える生徒は 98%だった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・壁、扉、水道など汚れが目立つ箇所に対しての取り組みに力を入れ成果を上げた。清掃分担箇所等が適正かどうか総合的に判断し、来年度再考していきたい。 ・教室内や購買などのゴミ捨て場は、比較的分別等ルールが守られていた。更に持ち帰る習慣を付けられるよう働き掛ける。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「自ら進んで挨拶ができる」「交通ルール・マナーを守る」と答える生徒 90%以上 ・交通事故件数 20 件未満 ・学校周辺および通学路の危険個所の調査・確認・周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自ら進んで挨拶ができる」と答えた生徒 94%、「交通ルール・マナーを守っている」と答えた生徒 99%。 ・交通事故件数 13 件（11 月末現在） ・浜松市「いっちゃお！」の活用を継続して呼び掛けた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様に生徒アンケートの結果は良いが、社会的な目線で考えればまだまだ指導の必要性がある。 ・交通ルール・マナーに関しては、命に関わることでもあるので、継続的に指導をしていく。
ウ	体系的なキャリア教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路指導を含めたキャリア教育（総合的な探究の時間）が充実している」と答える生徒 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路指導を含めたキャリア教育や進路指導が充実している」と答えた生徒 90%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動の計画的な指導もあり、充実していると答えた割合が増加した。 ・年間の進路指導計画を年度当初に立て、系統的に指導を行うことができた。 ・探究活動やボランティア、資格取得が総合型選抜につながるような指導法を検討したい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・卒業前アンケートで「決定した進路先に満足している」と答える生徒 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・12 月に進路が内定した 3 年生に対してアンケートを実施。「決定した進路先に満足している」と答えた生徒は 98%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進学では、総合型選抜、学校推薦型選抜で内定した生徒が多く、第 1 希望の進路を実現できた生徒が多いと考えられる。また、就職ではほとんどの生徒が 9 月実施の 1 回目の採用試験で合格した。

エ	国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ交流会を3回以上実施 ・浜北国際交流協会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生3名（アイスランド、アメリカ、インドネシア）が約4カ月間滞在し、全クラスの授業に入り、一部の授業では相互プレゼンを行った。 ・浜北国際交流協会の協力を得て、タイ国シリントン学校との交流が順調に継続できている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生を積極的に受け入れることで、留学生と交流する生徒が拡大した。 ・留学生のホストファミリー探しが課題となっている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・第2回タイ研修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ国シリントン学校との交流事業で、代表生徒10名・教員2名が、タイを訪問する研修を企画し、計画的に準備を進めることができた。 ・しかし、タイとカンボジアの紛争により、8月の訪問を12月に延期、更に12月の訪問も出発直前に中止となった。オンラインでの交流を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが収束し、7年ぶりにようやくタイ研修が実施できると期待したが、国際紛争により、タイ研修の中止が余儀なくされた。海外研修の難しさを実感している。
オ	大学や企業・地域・保護者等との連携や協働活動、貢献活動、広報活動（探究の時間を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・県大会出場10部活以上 ・1部活1地域交流活動（地域貢献活動・協働・連携等）の周知と実施 ・校内への普及体制（窓口）の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・予選を突破しての県大会出場は9部活であった。 ・1部活1地域交流活動は中学生との交流も含めて14部活で実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部12部活・文化部13部活があるなかで、多くの部活動が活発に活動し、充実した生徒の活動が見られた。 ・地域交流活動に関しては、まだまだ少なく、地域と交流していこうとする動きを活発にできるように、情報提供したい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会の開催年5回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会でそれぞれ5回以上の活動を実施できている。 ・榎の葉祭や体育大会は、保護者や一般に向けて公開することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動に関しては、各委員会で積極的に活動することができた。 ・学校行事は、新たな形を取り入れながら実施することができた。 ・地域との連携活動ができる場面を意識的に組み込んでいき、更に活発化させていきたい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・地域等と連携した防災教育の機会2回以上 ・地域防災リーダー育成と防災訓練の見直し ・家庭や地域との連携による、保護者等の学校行事への理解や参画 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の見直しを行い、体育館への避難方法を試行・検証した。 ・地域防災訓練への参加率は24%。 ・PTA だよりの発信をきずなネットを使用し、デジタル化した。 ・「P T A活動は保護者と職員が協力して活発に行われている」と答える保護者が88%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、体育館避難を試行し、その成果を検証したが、防災研修にて、教室内待機の避難法を新たに紹介された。本校では、教室内待機の避難法が適していると考えられるため、来年度は最適な避難方法について検討していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・連携したキャリア教育の機会3回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月の物産展、8月のフィールドワーク、10月の「総探の日」に、大学や地域の店、企業等と連携し、それぞれの活動を行った。2月の「発表会」には、関わっていただいた企業や保護者を招待した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな行事だけでなく、普段の探究活動の中にも協力してもらえような仕組み（連携）を作っていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・連携又は協働した安全教育の機会1回以上 ・S C（スクールカウンセラー）による相談を年20回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症予防講座（運動部1年生）、思春期講座（1年生）、薬学講座（全学年）を実施し、外部講師から指導講話をいただき安全教育を実施した。 ・S Cによる相談を年20回実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から、生徒たちは外部講師の講話から多くを学んでいることが分かる。安全教育充実のために、生徒の実態に合わせた内容で、来年度も継続して行いたい。 ・S Cの定期的な訪問により、生徒や保護者が気軽に相談できる環境がある。教員の勉強会の講師も務めていただき、学校の教育相談体制の向上に寄与している。
		<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の進路を意識した探究活動の構築 ・「行きたい学校づくり」事業を通じた探究活動の3年間の流れの検証・見直し ・学校運営協議会委員や地域の方の参画による探究活動やC S（コミュニティ・スクール）の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動の3年間の流れが構築できた。特に、今年度は、2年生のテーマをS D G s から進路を意識した自由テーマへと変更した。 ・「総探の日」には、学校運営協議会委員をはじめ、21人の方に講師として参画いただいた。「発表会」は、中学校や高校、保護者にも来ていただいた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生のテーマを自由に変更したことが、来年度の活動にどう影響するか、またどのように進路指導につながるかを検証する必要がある。 ・フィールドワークの行き先について、来年度検討したい。 ・地域を巻き込んだ探究活動を今後も推進していく。

		<ul style="list-style-type: none"> 職員対象HP作成研修の実施 行事担当や部活動顧問によるHP更新を週2回以上（長期休業中は除く） Instagramのフォロワー数2,500人超（令和7年3月末現在1,470） 	<ul style="list-style-type: none"> 新HP作成研修を実施し、行事の担当者・部活動顧問等による記事作成が進んだ。 HP更新は平均週2回以上実施した。 Instagramのフォロワー数は2,489。（令和8年3月末現在） 	A	<ul style="list-style-type: none"> HPとSNSによる情報発信、広報体制が整ってきた。 教職員の個人端末での撮影防止のため、学校所有のスマートフォンを6台導入し、修学旅行で活用した。データ共有の仕組みも構築した。来年度も行事等で積極的に活用したい。
カ	業務改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各学年・分掌、運営委員会等で意見の集約を図り、改善案を提示 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年・分掌、教科等に令和7年度年間計画の見直しを依頼し、令和8年度年間計画の修正に反映させた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画の見直しの体制は整った。 来年度に向け、年度末に出された意見や反省を各部署で検討し、改善案を提案する予定である。
		<ul style="list-style-type: none"> 部活動計画表の作成（年間及び月間）、提出 各部活動、年間80日以上以上の休養日の設定を努力義務化 	<ul style="list-style-type: none"> 各部活動が適切な休養日を設け、計画的な活動を実施できている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 計画的で活発な活動が実施できている。 生徒だけでなく保護者も活動予定を閲覧できる環境を全部活動で整えていく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> Google Workspace機能の利用促進 アンケートの完全ペーパーレス化（QRコードの廃止）80%以上 配布物のペーパーレス化に取り組んだ職員の割合80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> Google Drive活用研修を行った。デジタルサイネージ、Google Chat、電子ブックを用いた情報共有を行った。 各種マニュアルをほぼ毎月作成し、授業・校務に活用した。 アンケートのペーパーレス化に取り組んだ職員89%。 配布物のペーパーレス化に取り組んだ職員87%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は、デジタルサイネージをイベントで活用できるように、コンテンツを作成したい。また、校務削減のためのプログラム提供も行いたい。 ペーパーレス化、デジタル化の意識付けは定着したので、来年度はさらに校務DX化を進めていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 業務分担の明確化・平準化（業務負担の偏りをできるだけなくす） 業務マニュアル（要項、引継書）の作成・改善ができたと答える職員80%以上 校務フォルダの整理の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 業務分担の明確化・平準化を意識した人事配置を行った。 業務マニュアルの作成・改善ができたと答えた職員89%。 サーバー内の校務フォルダの整理に取り組んだ職員92%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各部署の業務分担表の整理と見直しを行い、業務の見える化を推進していく。 効率的かつ持続的に業務が進められるよう、マニュアル作成及び校務フォルダ整理については、次年度も重点的に取り組んでいく。